

科学技術コミュニケーション推進事業機関活動支援型
平成 27 年度採択企画
実施報告書

1. 企画名

地球温暖化問題に関する共感と協力の輪を拡げよう！

2. 提案機関名

特定非営利活動法人 co2sos

3. 提案企画の概要

この企画は、地球温暖化という人類全体に関わる問題に向き合う手がかりや場を提供する活動を通じてこの問題の解決のために世界中の人々が協働する持続可能な社会の実現を目指すものであり、ESD（持続可能な開発のための教育）の実践である。具体的には、地球温暖化問題に共感する協力者と共に CO2 濃度の地表付近の観測網を構築し、測定されたデータはインターネットを介して公開・可視化することで、人々の CO2 濃度に対する関心を高め、共に学び、地球温暖化問題について一緒に考える、相互学習活動の場と機会を提供するものであり、これらを多様なステークホルダーと対話や協働による科学コミュニケーションで実現するものである。

4. 企画の特徴

（1）課題設定の妥当性

地域もしくは全国規模の社会的な課題や問題の解決は、まず「自らの問題である」、「まずは自分から」、「自分にもできる」という気持ちになることが重要といえる。地球温暖化問題は、早急に対処すべき極めて解決困難な国際問題の一つであり、これをテーマに選定し実際に解決を試みることで、人々のモチベーションを高め、問題解決しようとする気持ちを養う課題設定は妥当といえる。

（2）成果およびその成果を展開、発展させるビジョンの妥当性

本企画の成果は計画された活動の実践に基づくものであり妥当といえる。成果の展開については、インターネット上で活動する協力者をも含む多様なステークホルダーの相互作用を伴う対話や協働による科学コミュニケーションに基づいており期待できる。

① 企画の新規性

本企画は、現代社会の課題に対して「自分には関係ない」、「他の人がやる」、「自分には無理」といった無関心や諦めの気持ちを、CO2 濃度の測定という誰もができることから始め、得られた測定データを活用した研究活動に取り組むことで払拭するものである。

本来、研究といえば専用施設や装置を準備し、実験の方法を考え、検討・考察と敷居が高いため専門家に委ねることになるが、本企画では前段部分を「一般向けの研究プラットフォーム」として提供することで、比較的容易に研究の醍醐味ともいえる「検討・考察」に取り組むことができることを目指している。

また、本企画では、時間や場所に捉われないインターネット上で活動する協力者との協働を可能としており、現に高いスキルを有する協力者も得ており、地球温暖化問題をはじめとする現代社会の課題を解決する有効な方法として期待できる。

② 実施計画の妥当性

本実施計画は過去 5 年の間に取り組んだ CO2 測定、公開、研究活動等に基づくものであり、現実的な計画といえる。更に多様なステークホルダーの相互作用を伴う対話や協働による科学コミュニケーションの考え方を取り込むことで、単独組織では困難な課題を総合力によって解決する計画となっている。

③ 経費の妥当性

本企画は会員およびインターネット上の IT 協力者を得ることで、ソフトウェア開発費が発生しない。また、CO2 測定装置設置についても協力者負担を原則としているため、経費は抑えられている。主な経費として、環境学習プログラムおよびエコ教室では、来訪者対応に人手を要するため報償費等を計上しているが、全体的には十分絞られた内容といえる。

5. 総合所見

目標の成果が得られ、科学技術コミュニケーションが推進された。

地球温暖化問題の可視化・公開活動（環境学習プログラム）、情報技術を用いた協働促進活動、地球温暖化問題の共考の場・機会の提供活動ともに、目標をほぼ達成している点は評価できる。今後も、測定や情報公開にとどまることのない双方向の科学コミュニケーション活動を推進していただきたい。

6. 実施者から PR・感想について

本企画は、地球温暖化という人類全体に関わる問題に向き合う手がかりや場を提供す

る活動を通じてこの問題の解決のために世界中の人々が協働する持続可能な社会の実現を目指すものであり、ESD（持続可能な開発のための教育）の実践である。具体的には、地球温暖化問題に共感する協力者と共に CO2 濃度の地表付近の観測網を構築し、測定されたデータはインターネットを介して公開・可視化することで、人々の CO2 濃度に対する関心を高め、共に学び、地球温暖化問題について一緒に考える、相互学習活動の場と機会を提供するものであり、これらを多様なステークホルダーと対話や協働による科学コミュニケーションで実現するものである。

本企画の実現は、多大なコストを要するものであり、弱小無名の組織には極めて困難な課題といえるだけに、これをインターネット上で活動する IT 専門家の共感を得て対等の立場による相互無償の協働関係で実現できたことの意味は極めて大きく、解決困難な国際問題の一つでもある地球温暖化問題にさえも挑むことができる可能性を確認できた点は、意義あるものと考ええる。

本企画では、岡山大学環境部 ECOLO との出会いに始まり、協働とは何かについて議論を繰り返す中で信頼関係を構築し、新たにプラネタリウムを活用した環境学習プログラム製作のためのプロジェクト立上げから、最近では事務局業務に関わりたいという方まで現れてきた。一方、協働に至るまでには多大な時間とエネルギーを要することや、組織間の協働が必ずしも組織を構成する個人全員との協働には成り得ないということも経験し、協働の素晴らしさと難しさを知ることができた。今後の活動に活かせるものと考ええる。



温室効果ガスの赤外吸収実験中の様子



ドライアイスの昇華実験中

以上